

藻場の再生で広がるネットワークとその探究活動について

～ 県外企業と全国の高校生との連携を通して～



徳島県立小松島西高等学校

徳島県南の美波町では、過去20～30年の間に藻場が急速に衰退しています。この問題に対し、県内外の企業や団体と協力し、藻場再生プロジェクトを立ち上げました。私たちは、環境保全と海洋資源の維持を目指し、漁業の衰退を防ぐとともに、豊かな海を守るための探究活動に取り組んでいます。

1. 未利用魚を使った商品開発

私たちは様々な企業の方と未利用魚を活用した商品開発に取り組み、これまで販売した商品は大きな反響を頂きました。それらの利益を藻場の再生に繋げることで消費者も間接的に藻場の再生に取り組んでいることに繋がる商品となっています。



2. 藻場再生のための取り組み

私たちは、昨年6月に企業と共同で藻場再生に向けた肥料を開発しました。この肥料には、小松島市の特産品である菌床しいたけの廃菌床や、磯焼けの原因となるウニの殻を活用し、資源の再利用を目指しています。



3. 企業との連携・啓発活動大会

私たちの力だけで海を豊かに守り続けることはできません。だからこそ、全国の人々が自分にできることを実践することが不可欠です。その想いを伝えるために、私たちは様々な大会に出場し、継続的な広報活動を行ってきました。

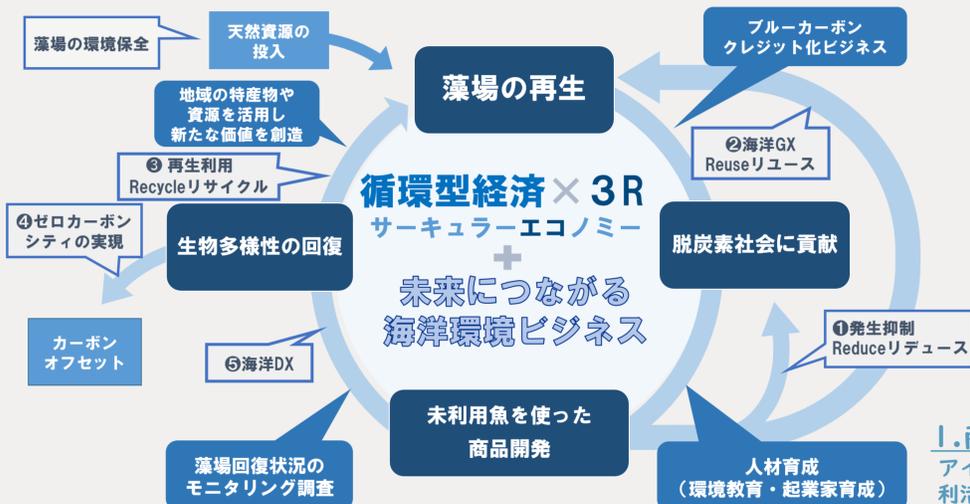


4. ブルーカーボンプロジェクト事業

磯焼けを減らすため、私たちはブルーカーボンプロジェクトを立ち上げ、企業と共同で藻場のモニタリング調査と被度分析を実施しました。さらに、海洋DXを活用することで調査の効率化を図り、従来のダイバーによる調査と比べ費用を6分の1に削減することに成功しました。また、全国の高校生で初めてブルーカーボンプロジェクトの申請を行いました。



●海洋DXと海洋GXが目指す循環型社会のビジネスモデル



1. 商品開発費

アイゴやブダイなどの未利用魚を活用（商品開発するための費用）
▶ 磯焼け（藻場の喪失）における1つの課題解決をすることができる！

6. 私たち消費者

未利用魚で開発された商品を購入・消費することにより、間接的に藻場の再生に投資が可能

5. 海洋DXによる藻場調査費

藻場調査費用や労働力の簡素化により、効率化と低コスト化を図る

2. 企業・団体

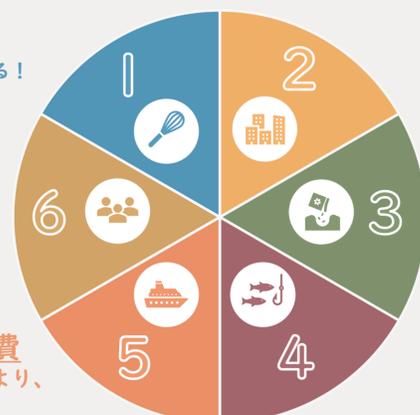
・海に関わる方々だけでなくすべての企業や団体の方々
・CSR活動の一環で、海に未来に投資したり、企業価値を高めたりしたい方々

3. 肥料開発費

天然資源を活用した資源の再利用で資源循環を図るための費用
▶ 藻場の再生につながる

4. 漁師の方々

従来よりも少しでも多くの収入源を作ることで仕事の魅力化につながる！



なんと！！

私たちの取り組みにより美波町の海では藻場がテニスコート10面分増えていることが分かりました！